関西大学学術リポジトリ
Kansai University Institutional Repository

目的語にかかるPredicate Appositive

その他のタイトル	The Predicate Appositive as Object Modifier
著者	中間 敬式
雑誌名	關西大學商學論集
巻	46
号	1-2
ページ	75-95
発行年	2001-06-25
URL	http://hdl.handle.net/10112/00018995

目的語にかかる Predicate Appositive

中　間　敬　弌

I. は じ め に

Predicate Appositive（叙述同格語）とはCurmeの用語[1)]である。叙述同格語は文の主語にかかる場合[2)]だけではなく，文の目的語にかかっていると考えられる場合がある。例えば，英語商業通信文で「～を同封して送付する」の意を，過去分詞 *enclosed* を用いて次のように書くことがある。

a-1　*Enclosed* we are sending you *our invoice* for the mohair rugs ordered on 5th January.

– L. Gartside, *Model Business Letters*, p. 122

本用例の過去分詞 *Enclosed* は「同封されている」の意を強調するために文頭におかれている[3)]が，同文は本来 we are sending you *our invoice*

1）George O. Curme, *Syntax*, pp. 30-32, 6 C. Predicate Appositive 参照。

2）拙稿「主語にかかる Predicate Appositive」『関西大学商学論集』第42巻第6号（1998年2月）pp. 163-181 参照。

3）Our invoice is *enclosed* (*attached*).における，本来，be 動詞に続く受動態の過去分詞 *enclosed* (*attached*) を，強調のためや，主部が修飾語句のために長く，頭でっかち（top-heavy）の文になるのを避けるために，倒置して文頭におき *Enclosed* (*Attached*) is our invoice.とする場合がある。本用例も，現代英語では，簡単にして *Enclosed* is our invoice for... と書くところである。cf. 1. Our invoice number B 832 is *enclosed* covering the polyester shirts ordered on 13 August. – L. Gartside, *Model Business Letters*, 4th edition, p. 70 → *Enclosed* is our invoice number B 832 covering... 2. *Enclosed* is a bill of lading, consular invoice,

enclosed[4]と解される。すなわち，*enclosed* は他動詞 *enclose* の過去分詞形の形容詞として，同文の述語動詞 are sending の目的語である *our invoice* にかかっている。換言すると，*enclosed* は主語の we が you に *our invoice* を送付する (are sending) 際の目的語 *our invoice* の相並行する様態を補足的に叙述している語で，Predicate Appositive (叙述同格語) であるということになる。

本小論においては，Predicate Appositive (以下，PA と省略する) が文の目的語にかかっていると考えられる場合，どのような語が文中で目的語を修飾する PA として働くのかについて現代英語の用例を通して考察をおこない，英文に頻出する PA の本質を明らかにしたい。

II. 目的語にかかる PA としての過去分詞

先ず，用例 a-1に引き続き，過去分詞が形容詞として文の目的語に補足的にかかって PA として機能している場合について考察することにしよう。

---

certificate of insurance and our invoice relating to a consignment of fibreglass wash basins for shipment by SS *Tigris* to Mr Faisal Ashkar of Bahrain. - *Ibid*., p. 267 特に，本例のように主語が長い場合は，文が top-heavy になるのを避けるために，*Enclosed* is (are)...のように倒置するのが普通である。また，1の場合も，*Enclosed* で始まる書き換え文の方が，主語にかかる covering...という修飾語句が主語の直ぐ後におかれるので，より良い文になると言えよう。

4)「～を同封の上送付する」「～を同封する」は，現代の商業通信文においては，次の用例が示すように，we are sending (you) herewith...; we are enclosing...のように言い表すのがより普通である。cf. We are pleased to have your enquiry and *are sending* you *herewith* the price-list requested. - F. W. King and D. Ann Cree, *Modern English Business Letters*, p. 37; In the meantime, we *are enclosing* an illustrated catalogue of our plastic goods, and also details of our terms and conditions of sale. - L. Gartside, *Model Business Letters*, 4th Edition, p. 32;

a-2　*Enclosed* you will find *our quarterly statement*, which includes this latest transaction.

– Gordon Drummond, *English for International Business*, p. 59

本用例の過去分詞 *Enclosed* も，a-1の場合と同じく，強調のために文頭におかれている。両文とも，動詞の目的語が *invoice* や *statement* という同封物であることからわかるように，「～を同封している」「～が同封されている」の意を表しているが，それぞれ視点が異なる，すなわち，一人称複数の we が主語になっている we are sending you...と，二人称複数の you が主語になっている you will find...の違いである。いずれにしろ，本文も，本来，You will find *our quarterly statement enclosed* のことであると解され，過去分詞 *enclosed* は，動詞 find の目的語 *our quarterly statement* に形容詞として補足的にかかって叙述する語で，PA であるということになる。しかし，*Enclosed* を文頭以外の位置におくとすれば，同文には動詞 find の目的語 *statement* に，which includes...という修飾語句が続くので，次例に倣って，目的語の前において You will find *enclosed our quarterly statement*, which...とすることになろう。

a-3　You will find *enclosed our Credit Note* for £51 10s. 0d., which puts the accounts straight.

– *Ibid*., p. 61

本用例も既に考察した用例と同じく，本来は，You will find *our Credit Note enclosed* であると解されるが，動詞 find の目的語 *our Credit Note* に修飾語句の for...が，さらに，金額に which...が続くので，過去分詞の *enclosed* は目的語の前におかれている。同じことが用例 a-1についても言えよう。すなわち，a-1の目的語 *our invoice* には for the mohair rugs という修飾語が続き，さらに，...rugs には ordered on 5th January という修飾語が続くので，*enclosed* をこれらの修飾語の後におくと，目的語の our invoice から離れすぎる。従って，同語は文尾ではなく，文中におかれ We

are sending you *enclosed our invoice* for...とすることになる[5)]。もちろん，a-1, a-2の用例に倣って *enclosed* を強調のために文頭において *Enclosed* you will find our...のようにすることも可能である。いずれにしろ，過去分詞 *enclosed* は，主語 you が目的語の名詞 our Credit Note を find する際の our...の相並行する状態を補足的に叙述している。従って，*enclosed* は目的語の *our Credit Note* にかかる PA であるということになる。

a-4　*Enclosed* please find *a cheque* covering such expenses as all this may incur.

- Truman Capote, *Other Voices, Other Rooms*, p. 10

用例 a-2の *Enclosed* you will find *our quarterly statement*...を，本用例に倣って *Enclosed* please find our...[6)]と書くこともできるが，いずれ

---

5) ただし，目的語に修飾語句が続かない *Enclosed* you will find *our pro forma invoice*, and... - Gordon Drummond, *English for International Business*, p. 55 の用例においては，You will find *our pro forma invoice enclosed* のように，*enclosed* を文尾におくことが可能である。また，*enclosed* に with this letter のような修飾語句が続く場合も You will find *enclosed* with this letter *a sample of*... - F. W. King and D. Ann Cree, *English Business Letters*, Revised by David O'Gorman, p. 32 のように *enclosed* with...は文尾ではなく文中におき，目的語の a sample of...を強調位置である文尾におくのが普通であろう。

6) 同表現は，主として米国のビジネス・コミュニケーションの研究書に，避けるべき陳腐な表現の一つとして挙げられているが，現代の英語商業通信文に相変わらず散見される。例えば,下記の書では Trite Expressions の一例として enclosed please find を挙げ enclosed is に書き換えなさい，としている。Herta A. Mruphy and Charles E. Peck, *Effective Business Communications*, Third Edition, p. 36 参照。また，次の書も，Enclosed you will *find* suggested specifications for...や You will *find* this information enclosed.の用例を挙げ，それぞれ，Enclosed are some suggested specifications...や This information is enclosed. Enclosed is this information.に書換えるように勧めている。John P. Riebel, *How to Write Successful Business Letters*, p. 247 参照。また，Janis は **enclosed please find** について，stereotyped letter phrase とし *I am enclosing* や *enclosed is* とする方がより普通の表現である，としている。J. Harold Janis, *Modern Business Language and Usage in Dictionary Form*, p. 142 参照。

の場合も，過去分詞の *Enclosed* は他動詞findの目的語を補足的に叙述しているPAである。すなわち，Please find *a cheque enclosed* ということである。しかし，*a cheque* にはcovering...という修飾語句が続くので同語を文頭以外におくとすれば，文尾ではなく，次例のように，目的語の前，すなわち，文中においてPlease find *enclosed* a cheque covering...とすることになろう。

a-5　Please find *inclosed a copy of a letter* that was published in *The Economist* in July this year explaining our use of the word billion.

同文は，英国の *The Economist* 誌Research Departmentから筆者に宛てられた手紙（1990年9月14日付）の中の一文である。注6）で述べているように，Please find *enclosed*...やYou will find *enclosed*...は，現代の通信文にはふさわしくない陳腐な表現で避けるべきであるとされているが，用例にあるように今日でも散見される。既に考察した場合と同じく，同文の過去分詞 *inclosed* は，目的語の *a copy of a letter* にthat was published...の修飾語句が続くので文尾ではなく，同語の前，すなわち，文中におかれている。もちろん，a-4に倣って，過去分詞 *inclosed* を強調のために文頭において *Inclosed* please find *a copy of*...とすることも可能である。結局，形容詞としての過去分詞enclosed(inclosed)の文中における位置としては，文頭，文尾，文中の3位置があることになろう。

a-6　Clemenceau was a tough, determined, and skillful politician. He was also a vengeful old man, who had seen *much of France ruined*, *the flower of French manhood consumed* in the horrendous war, and who could personally remember the harsh peace terms that Germany had imposed on his country after the Franco-Prussian War.

- World War I, reviewed by Robert D. Ramsey III (*The Academic American Encyclopedia*, Electronic Version, 1995)

本用例の過去分詞 *ruined* も，基本的には，用例 a-1〜a-5における過去分詞 *enclosed*（*inclosed*）の場合と同じである。本文は，結局，he had seen *much of France ruined* ということであり，過去分詞の *ruined* は，主語の *he* が目的語の *much of France* を見た（had seen）際の目的語の相並行する様態を補足的に叙述している語で PA であるということになろう。同様に，過去分詞 *consumed* も，he had seen *the flower of French manhood consumed* における目的語 *the flower of French manhood* を補足的に叙述している語で PA である。

a-7　A thin stream of toxic brown mist was seeping along the edge of the hatch. The men opened and slammed *it shut* again, pulling *the locking wheel* even *tighter*.

- *Reader's Digest*, March 1998, p. 131

同文の過去分詞 *shut* は，主語の The men が目的語の it すなわち the hatch をバタンと閉めた（slammed）後，the hatch がきちんと閉められた状態（shut）になっていることを示している語で，形容詞として目的語の it を補足的に叙述している PA であるということになる。本用例から，PA には目的語の相並行する様態だけではなく，目的語の後の様態を表す場合もある，ということになろう。本例の場合は，目的語の the hatch を slam した後の結果としての様態が shut（きちんと閉められた）である，ということになる。さらに，その後に続く *pulling* the locking wheel even tighter は主語の The men が the hatch を開けて（opened）から，バタンと閉めた（slammed）際の相並行する様態を補足的に示している語で，主語の The men にかかる現在分詞の PA である，ということになろう。従って，本用例を The men opened, slammed it shut again and pulled the locking wheel even tighter. と書き換えた文とは異なる。なぜならば，書き換え文においては，動詞の pulled は pulling... と続ける場合の補足語ではなく slammed と同じ力を持つ語として用いられているからだ。また，tighter は，現在分詞 pulling の目的語である the locking wheel にかかり，同目的

語を修飾している形容詞でPAである，ということになろう。すなわち，the locking wheelをpullした結果，the locking wheelの様態がtighterになっているということになる。しかし，同語は，more tightlyの意の単純形副詞（flat adverb）であるという考え方もあろうが，それに関しては稿を新たにして考察することにしたい。

a-8 The relationship was facilitated by Betty Currie, Clinton's private secretary, a motherly, church going woman who acted as go-between: setting up meetings for Clinton and Lewinsky, connecting them by telephone but not always logging the calls, passing *Lewinsky's letters and parcels* to him *unopened*, finding ways to get her into the White House past hostile presidential aides and even coming to the White House on weekends just to escort Lewinsky to the President.

- *Time*, September 21, 1998, p. 42

本用例はwho acted as go-betweenの後にコロンをおいて，仲介の労をとった（who acted as go-between）ことの内容をその後に続く5つの現在分詞setting up..., connecting..., (but not always logging), passing..., finding..., coming ...を用いて，仲介の労とは，すなわち， ～ と ～ である，と説明している。また，本文は，コロンなしでwho acted as go-between setting..., connecting..., passing..., finding...and even coming...と書くことも可能である。その場合，5つの現在分詞setting..., connecting..., (but not always logging), passing..., finding..., coming...は，whoの先行詞であるBetty Currieにかかることになる。いずれにしろ，passing *Lewinsky's letters and parcels* to him *unopened*における過去分詞の*unopened*は，passingの目的語である*Lewinsky's letters*と*parcels*を彼（to him）に手渡す（pass）際の*letters*と*parcels*の様態が*unopened*であることを表している。すなわち，手紙や小包が彼に手渡されたが，その際の手紙や小包は開封されていない（*unopened*）状態であ

った，ということで，*unopened* は形容詞として *Lewinsky's letters* と *parcels* を補足的に説明している PA であるということになる。

III. 目的語にかかる PA としての現在分詞

b-1　One man took pity on him—"He watched *me cleaning* up his building for free," recounts Lee, "and concluded that I am very hard working"—and cheaply rented him a room above a noisy auto repair shop.

- *Time*, August 24, 1998, p. 20

現在分詞も形容詞として文の中で目的語にかかり，PA として働く場合がある。本用例の現在分詞 *cleaning* がそれで，主語の He が目的語の me の動作をじっと見た際の me の相並行する様態が *cleaning* up... ということで，PA であるということになる。すなわち，主語＋動詞＋目的語の He watched me だけで完全な意味を伝えうる文であり，*cleaning* up... は *me* を補足的に叙述する PA であるということになろう。

b-2　And she heard *his voice coming* back down the highway.

- Robert James Waller, *The Bridges of Madison County*, p. 125

本用例の *coming* back も，she heard *his voice* という完全文における *his voice* を補足的に叙述している PA である。

b-3　Firemen found *a man's body lying* on a bed, a plastic bag over his head.

- *Reader's Digest*, March 1998, p. 32

用例 b-1，b-2と同じように，本例の現在分詞 *lying* は，Firemen が *a man's body* を見つけた（found）際の *a man's body* の様態を補足的に述べる語で，PA であるということになる。また，文尾におかれている a plastic bag over his head も，*a man's body* の付帯状況を述べている語で PA

の一種であると考えられる。

b-4　Then one day towards the middle of October I strolled into the Valhalla to find *him sitting* at the fountain playing dominoes and drinking wine with Hamurabi.

- Truman Capote, *A Tree of Night and Other Stories*, p. 63

本用例の現在分詞 *sitting* は，find の目的語 *him* の様態を補足的に記述している形容詞で PA である。すなわち，同文は現在分詞の *sitting* を欠く find him at the fountain のみでも，意味上，成立する，ということになる。では，現在分詞 *sitting* の後に続く目的語付きの現在分詞 playing dominoes と drinking wine は文法的にどの語にどのようにかかっているのか。これらの現在分詞が find him sitting の後に，find him playing dominoes さらに find him drinking wine と順番に続いているのではないことは playing dominoes の前にコンマがないことから明白である。従って，これらの現在分詞 playing... と drinking... は，*him* が *sitting* している際の *him* の相並行する様態をさらに下位区分的に叙述している補足語で，2 次的な PA であるということになる。すなわち，*sitting* は 1 次的（primary）PA, playing... と drinking... は 2 次的（secondary）PA である，ということになろう。

b-5　Lamphan left the village, but was returned after authorities raided a Bangkok brothel last January and discovered *her working* there.

- *Time*, August 24, 1998, p. 16

本用例も，用例 b-4 と同様に，現在分詞 *working* が欠けても，discovered *her* there のみで文は意味上成立する。従って，*working* は主語の authorities が her を discover した際の her の様態を補足的に叙述している現在分詞の形容詞で PA である，ということになろう。

IV. 目的語にかかるPAとしての形容詞

c-1　He had decided his first priority was to bring *his 119 men* home *alive*, no matter the cost.

- *Reader's Digest*, March 1998, p. 125

本用例に見られるように，形容詞が目的語にかかって同語の様態を補足的に叙述している場合がある。本例の形容詞 *alive* は動詞 bring...home の目的語 *his 119 men* の様態が *alive* であったことを表しており，PA である。同様に，次例の *alive* も目的語 him の相並行する様態を補足的に叙述している語で，PA である，ということになろう。

c-2　He scolded them, because they did not have faith and because they were too stubborn to believe those who had seen *him alive*.

- *GOOD NEWS BIBLE*, Mark 16. 14, p. 74

c-3　At first she thought someone was trying to *shake her awake*, but in the next heart-stopping instant she kenw what it was: an earthquake.

- *Reader's Digest*, January 1996, p. 120

本用例の形容詞 *awake* は，*her* を shake した結果の *her* の様態を示している，すなわち，*awake* は，彼女が shake された結果，目がさめた(*awake*)状態になっていることを表し，PA として補足的に目的語 her を修飾している。既に考察した用例 a-7の The men...slammed *it shut* において，過去分詞 *shut* は，The men が *it* (＝the hatch) をバタンと閉めた (slammed) 後，*it* がきちんと閉められた (shut) 状態になっていることを補足的に示しているが，その場合と同じであると言えよう。PA としての形容詞 *awake* と過去分詞の *shut* の用例が示すように，PA は，c-1, c-2の形容詞 *alive* のように，目的語の相並行する様態を補足的に表すだけではなく，目的語の相前後する様態 (c-3や a-7の場合は，動詞で示される動作の後の結

果としての様態[7]）を補足的に表す場合もある，ということになろう。

c-4　He then told me how to pick the veal, how to cook it slowly, with such evaporation that the soup would turn into jelly later, then how to cut it up and press it with one pan inside another and eat *it cold.*

- Dale Carnegie, *How to Win Friends and Influence People*, p. 64

本用例の形容詞 *cold* は目的語 *it*（=veal）の相並行する様態を補足的に示す語で PA である。すなわち，*it* を *cold* の状態で eat するということであり，場面によっては eat *it hot* という文もあり得る。いずれにしろ，代名詞 *it* の相並行する様態を叙述する語として，形容詞の *cold* あるいは hot という語が用いられるのであり，その意味で，本来，動詞を修飾する副詞の coldly や hotly とは本質的に異なる。

c-5　"Make one wrong move and I'll shoot *you dead*. Keep driving—and don't stop."

- *Reader's Digest*, August 1998, p. 26

c-6　In 1877, during a quarrel, he shot *dead his next-door neighbour*

7）Cf. The horses dragged the logs smooth. John hammered the metal flat. I painted the wall red. He tied his shoelaces tight. The jockeys raced the horses sweaty. He sharpened the pencil pointy. She cleaned the porch spotless. She wiped the table clean / dry. The joggers ran the pavement thin. Drive your engine clean.—鷲尾 龍一「語のタイポロジー」『言語』Vol.25, No.11（1996年11月号）；同用例における形容詞 smooth, flat, red, tight, sweaty, pointy, spotless, clean / dry, thin, clean も，用例 c-3の形容詞 *awake* や a-7における過去分詞の形容詞 *shut* と同様に PA であると考えることができよう。すなわち，The horses dragged the logs smooth.における形容詞 smooth は，主語の the horses が目的語の the logs を引きずるという動作をした（dragged）結果，丸太（the logs）がすべすべになっている（smooth）ことを補足的に表している。従って，同文は smooth を欠く The horse dragged the logs.のみでも文として成立するということになろう。

Mr.Dyson (with whose wife he had been associating) in the yard...

- Colin Wilson and Patricia Pitman, *Encyclopaedia of Murder*, p. 507

用例 c-5においては，主語の I が目的語の you を動いたら撃つ (shoot) と脅しており，形容詞 *dead* は you が撃たれた後に陥る状態を補足的に示している語で，PAであるということになろう。c-6も，本来，he shot *his next-door neighbour dead*とするところであるが，目的語の*his next-door neighbour* には，同格の *Mr. Dyson* が続き，さらに，目的語を説明する括弧付の修飾語句 (with whose wife...) が続くので，*dead* を文中に移動し，それらの目的語をより重要な位置である文尾においている，そして，*dead* は，*his next-door neighbour* が he に撃たれた後の様態を補足的に叙述している語で，PA であるということになる。辞書は，shoot＋目的語に続く *dead* を目的格補語としている[8]が，目的格補語と PA の関係については，VI. で考察したい。

c-7　We are glad to confirm our telegram dispatched today offering *you firm the following goods*:

- Keiichi Nakama, *English for International Business*, p. 19

貿易取引において，売り手は，買い手からの引合い (enquiry, inquiry) に対して，承諾回答期限付きの売申込み，すなわち，ファーム・オファー (a firm offer) を出す場合がある。本用例は，売り手が買い手に電報でファーム・オファーを送付後，その電文の内容を手紙で確認している英文の冒頭の部分である。本稿で考察の対象にしているのは offering *you firm the following goods* の部分である。従って，同部分を下記のように書き換えて考察を続けることにしよう。

8）『ランダムハウス英和大辞典』第 2 版（1994）；『ジーニアス英和辞典』〈改訂版〉(1994) それぞれの‘shoot’の項参照。

c-7-a　We offer you *firm* the following goods:

c-7-b　We offer the following goods *firm*:

形容詞*firm* は，c-7-a においては，主語(we)＋動詞(offer)＋間接目的語（you)＋直接目的語（the following goods）構文の文中に，c-7-b においては，主語（we)＋動詞（offer)＋目的語（the following goods）構文の文尾に，補足的に添えられている。すなわち，形容詞*firm* の一語が，主語の we が目的語の the following goods を offer する際の offer とは承諾回答期限付きの a *firm* offer であることを示しており，同語は PA であるということになる。さらに，それぞれの文は a *firm* offer を用いて次のように書き直すことができよう。

c-7-a'　We make you a *firm* offer for the following goods:

c-7-b'　We make a *firm* offer for the following goods:

同様に，用例 c-7の offering you *firm* the following goods:の部分は，making you a *firm* offer for the following goods:と書き換えることが可能である，ということになる。同語が補足的な PA であるということは，同語が欠けてもそれぞれの文は意味上成立する，ということである。さらに，*firm* はあくまでも形容詞であって，副詞ではない，すなわち，副詞 *firmly* あるいは hold *firm* to や stand *firm* to とする場合の動詞 hold や stand を修飾している副詞の *firm* とは異なる，ということになろう。

c-8　The good soul seized the flask, and went off hugging it. She returned *it* to me *half empty*.

- John Galsworthy, *Caravan*

主語の *she* は *it*（＝the flask）を返したのであるが，その際に返された目的語 it の様態が *half empty* であると補足的に示されており，同語は PA であるということになる。従って，同文は *half empty* が無くても She returned it to me のみで文として成立することになる。なお，*half* は副詞として形容詞の *empty* を修飾している。同語を補足語としてではなく，名詞を直接修飾する形容詞として用いて書き直すと She returned the *half*-

empty flask to me.となろう。

c-9　With no time to lose, he grabbed a fire ax and pried *open the door*.

　　　　　　　　　- *Reader's Digest*, March 1998, p. 134

本用例の形容詞 *open* は，主語の he が the door をこじ開けた (pried) 結果，目的語の the door が開いている (open) 状態になっていることを示している語で，PA である。同語は既に見た用例 a-7の The men. . .and slammed *it* (=the hatch) *shut* における過去分詞の形容詞 *shut* や c-3の someone was trying to shake *her awake* における形容詞の *awake* と同じように，動詞で表される動作の結果としての目的語の様態を記述している。

c-10　In 1894 he struck *it* moderately *rich in* a gold *find*, and the two moved to Denver, where she sought rather garishly and unsuccessfully to enter Denver society.

　　　　　　　　　- *The New Encyclopaedia Britannica*, Volume 2, p. 559

RANDOM[2]は strike it rich を a. to come upon a valuable mineral or oil deposit. b. to have sudden or unexpected financial success:と定義し，She struck it rich in real estate.の用例を挙げている。同用例が示すように，同表現はふつう strike it rich で一つのまとまりのある語として用いられるが，本来は，主語の he が目的語の it を掘り当てた (struck) 結果，金持ち (rich) になったことを示しており，形容詞 *rich* は *it* を補足的に叙述している PA であると言えよう。

c-11　Ruth did not approve of these girls who wore, in her opinion, too much lipstick (Ruth didn't wear any), wore *their skirts* too *short*,. . .

　　　　　　　　　- Douglas Stout, *Profiles of American College Students*, p. 18

本用例の形容詞 *short* は，他動詞 wore の目的語である their skirts にかかり同語の相並行する様態を補足的に叙述している語で PA である。換言

すると，these girls はスカートをはいていた（wore）が，その長さは短すぎた(too short)，の意を補足的に述べている。従って，wore their *too short* skirts とする場合とは本質的に異なると言えよう。

V. 目的語にかかるPAとしての名詞

d-1　Mr. Grabfield did his duty by Lucius Mason, and sent *him* home at seventeen *a handsome, well-mannered lad* (Trollope, *Orley Farm*, I, Ch. II).

- George O. Curme, *Syntax*, p. 121

本用例の文尾におかれている名詞 *a handsome, well-mannered lad* は，主語の Mr. Grabfield が目的語の *him* を帰宅させた（sent *him* home）際の *him* の様態を補足的に叙述している語で，PA であるということになる。すなわち，本文は文尾の同語を欠く and sent him home at seventeen のみでも，意味上，成立する文であるということになろう。

VI. おわりに —目的格補語との関連で—

以上，過去分詞，現在分詞，または，名詞が形容詞として，さらには，形容詞それ自身が，文中で目的語にかかって，目的語の相並行，あるいは，相前後する様態を補足的に叙述している補足語，すなわち，PA について考察をおこなった。では，これらの目的語にかかる PA (叙述同格語) と目的（格）補語とはどのように異なるのか。

例えば，次に挙げる用例の形容詞 *clear* は，ふつう，目的格補語とされるが，同語は PA とはどのように異なるのか。

e-1　I trust this explanation will *make matters clear*.

- L. Gartside, *Model Business Letters*, 4th Ed., p. 283

先ず，目的格補語とは何かを検討することにしよう。『現代英文法辞典』

は，objective complement (目的格補語) とは，「他動詞が目的語のみでは意味が不完全になる場合，それを補うために目的語の後［また，まれに目的語が長い場合などには目的語の前］に置かれる要素をいう」と定義し，用例として We have proved him *wrong*.を挙げ，さらに，「目的格補語は，いわゆる学校文法でいう第五文型「主語＋動詞＋目的語＋補語」の補語をいい，主語とは直接関係を持たず，他動詞の領域内での目的語について叙述するものである。」と述べている。

同定義にあるように，目的格補語とは他動詞が目的語のみでは意味が不完全になる場合，それを意味上，補う語であり，それは学校文法でいう第5文型「主語＋動詞＋目的語＋補語」における補語である，ということになる。すなわち，「主語＋動詞＋目的語」のみでは，意味上，文が成立しないので，目的語を意味上，補う補語を必要とする文，ということになろう。

本用例の make は他動詞，他動詞 make の目的語が *matters* であるが，同語に続く形容詞 *clear* のない this explanation will *make matters* のみでは，意味上，成立しない文になる。本例の動詞 make は「…を…にする」の意で「主語＋動詞＋目的語＋補語」の第5文型で用いられ，同文が意味上，成立するためには，目的語 *matters* に続く補語の *clear* を必要とする，ということになる。

e-2　We shall be very pleased to welcome him and to do all we can to *make his visit enjoyable* and *successful*.

- L. Gartside, *Model Business Letters*, 4th Ed., p. 154

本用例の to *make* も，用例 e-1と同じく，「…を…にする」の意で用いられており，目的語の *his visit* の意味を補う *enjoyable* と *successful* という形容詞の目的補語を必要としている。すなわち，to *make his visit* だけでは意味を成さない文，ということになる。

e-3　We must keep *America whole*, and *safe*, and *unspoiled*.

- Christopher Silverster(Ed.), *THE PENGUIN BOOK OF INTERVIEWS*, p. 286

本用例における動詞keepは他動詞であるが，We must keep *America* だけでは文として意味を成さない，従って，*whole* という形容詞を必要とし，それが目的語 *America* の補語，すなわち，目的格補語ということになる。本文においては，形容詞 *whole, safe* そして，形容詞として用いられている過去分詞の *unspoiled* が目的格補語ということになる。換言すると，同文はこれらの目的格補語があって文として意味上，成立するということになる。

e-4　I call *him Mr Marshall* because everybody, including his wife, called *him Mr Marshall.*

- Truman Capote, *A Tree of Night and Other Stories*, p. 62

本用例の他動詞callに続く *him* と *Mr Marshall* は，それぞれ目的語と目的補語であると言えよう。すなわち，私は彼を (Mrを付けて) Mr Marshallと呼んでいる，の意で，同文は目的補語である *Mr Marsahll* を補って文意が完全になる。

では，ここで既に考察したPAの用例c-1を通して，目的語にかかるPredicate Appositiveと目的補語との違いについて考えることにしよう。

e-5(c-1)　He had decided his first priority was to bring *his 119 men* home *alive*, no matter the cost.

本例における形容詞 *alive* は，用例e-1, e-2における動詞makeの場合の目的語に続く形容詞とは異なり，目的補語ではない。なぜなら，本文は動詞to　bring...homeとその目的語の *his 119 men* すなわち，形容詞の *alive* がないto bring *his 119 men* homeだけで文は意味上成立するからである。従って，本文の形容詞 *alive* は *his 119 men* を連れて帰る（to bring...home）際の *his 119 men* の相並行する様態を補足的に述べている語，すなわち，PAである，ということになろう。

さらに，用例c-5, c-6を通して考察した下記のshoot〜*dead* における形容詞 *dead* について再考することにしよう。

e-6 (c-5)　"Make one wrong move and I'll shoot *you dead*. Keep driving —and don't stop."

e-7 (c-6)　In 1877, during a quarrel, he shot *dead his next-door neighbour Mr.Dyson* (with whose wife he had been associating) in the yard...

英和辞書[9]は本用例の他動詞 shoot の目的語の後に続く形容詞 *dead* を目的補語としているが，既に考察したように，本用例は *dead* を欠く「主語＋動詞＋目的語」の I'll shoot you あるいは he shot his next-door neighbour のみで文意はまとまっている，従って，形容詞 *dead* はそれぞれの文の目的語の様態を補足的に叙述している PA であると考えられる。しかし，動詞 shoot は，「撃つぞ」と警告する場合，I'll shoot you!のように単独で用いることが可能であると言えても，he shot his next-door neighbour の場合は，後に *dead* とか in the arm のような語を添えて He shot his next-door neighbour *dead* とか He shot his next-door neighbour in the arm（本文の in the arm は副詞）のようにして，撃った（shot）後の様態とか撃った場所を示すのがより普通である，ということもできよう。このように考えると，英文の深い考察を目的としない学校文法の段階では，このような場合の *dead* を目的補語として済ましておくことも便法と言えよう。

参考文献

一般辞書

COLLINS COBUILD ENGLISH DICTIONARY. London: HarperCollins. 1995.

COLLINS COBUILD ENGLISH LANGUAGE DICTIONARY. London: Collins. 1987.

COLLINS ENGLISH DICTIONARY, Third Edition. Glasgow, U.K.: HarperCollins. 1991.

9）注 8）参照。

KENKYUSHA'S NEW DICTIONARY OF ENGLISH COLLOCATIONS. (Edited by Senkichiro Katsumata)『新英和活用大辞典』東京：研究社．1958.

Longman Dictionary of Contemporary English, 2nd Edition. Harlow, England: Longman. 1987.

Longman Dictionary of Contemporary English, 3rd Edition. Harlow, England: Longman. 1995.

Merriam-Webster's Collegiate Dictionary, Tenth Edition. Springfield, Mass.: Merriam-Webster. 1993.

New Shogakukan Random House English-Japanese Dictionary.『ランダムハウス英和大辞典（第2版）』東京：小学館．1994.

Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English. 3rd edition, edited by A S Hornby.東京：開拓社．1974.

RANDOM HOUSE UNABRIDGED DICTIONARY, Second Edition. New York: Random House. 1993. [*RANDOM*^{2}]

The Kenkyusha Dictionary of English Collocations.『新編英和活用大辞典』東京：研究社．1995.

The Oxford English Dictionary, Second Edition. 20 vols. Oxford, U. K.: Oxford University Press. 1989. [*OED*^{2}]

Webster's Third New International Dictionary OF THE ENGLISH LANGUAGE. UNABRIDGED. Springfield, Mass.: G. & C. Merriam. 1961, 1966.

参考書

Araki, K.（荒木一雄）(ed.) 1986.『英語正誤辞典』東京：研究社出版.

________. (ed.) 1996.『現代英語正誤辞典』東京：研究社出版.

Araki, K. and Yasui, M.（荒木一雄・安井稔）(eds.) 1992.『現代英文法辞典』東京：三省堂.（『現代英文法辞典』）

Burchfield, R. W. (ed.) 1996. *The New Fowler's Modern English Usage*. Third Edition. Oxford, U. K.: Oxford Univ. Press.

Curme, George O. 1974. *Principles and Practice of ENGLISH GRAMMAR*. New York: Barnes & Noble.

Curme, George O. 1931. *Syntax*. Boston: D.C. Heath.

Dowty, David. 1972. "Temporally Restrictive Adjectives," John P. Kimball (ed.), *Syntax and Semantics*, Volume 1. New York: Seminar Press.

Evans, Bergen and Cornelia Evans. 1957. *A Dictionary of Contemporary American Usage*. New York: Random House.

Fowler, H. W. 1965. *A Dictionary of Modern English Usage*. Second Edition, revised by Sir Ernest Gowers. Oxford, U. K.: Oxford University Press.

Ishibashi, K. et al.（石橋幸太郎他）(eds.) 1966.『英語語法大事典』東京：大修館書

店.

Ishibashi, K. et al. (石橋幸太郎他) (eds.) 1973.『現代英語学辞典』東京：成美堂.

Janis, J. Harold. 1984. *Modern Business Language and Usage in Dictionary Form*. Garden City, N. Y.: Doubleday.

Konishi, T. (小西友七) 1964.『現代英語の文法と背景』東京：研究社出版.

__________. (ed.) 1980.『英語基本動詞辞典』東京：研究社出版.

__________. (ed.) 1989.『英語基本形容詞・副詞辞典』東京：研究社出版.

Murphy, Herta A. and Charles E. Peck. 1980. *Effective Business Communications*, Third Edition. New York: McGraw-Hill.

Nakajima, F. (中島文雄) 1980.『英語の構造 下』(岩波新書) 東京：岩波書店.

Nakama, K. (中間敬弌) 1970.「Predicate Appositive に関する一考察」『関西外国語大学研究論集』第15号 (昭和45年4月)

__________. 1974.「商業英語における分詞構文の一考察」『関西外国語大学研究論集』第21号 (昭和49年2月)

__________. 1983.『商業英語の語法』東京：大修館書店.

__________. 1998.「主語にかかる Predicate Appositive」『関西大学商学論集』第42巻第6号 (1998年2月)

Otsuka, T. (大塚高信) (ed.) 1959.『新英文法辞典』東京：三省堂.

__________. (ed.) 1970.『新英文法辞典 〈改訂増補版〉』東京：三省堂. (『新英文法辞典』)

Otsuka, T. and Nakajima, F. (大塚高信，中島文雄) (eds.) 1982.『新英語学辞典』東京：研究社.

Otsuka, T. and Konishi, T. (大塚高信，小西友七) (eds.) 1973.『英語慣用法辞典 〈改訂版〉』東京：三省堂.

Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech and Jan Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. New York: Longman.

Riebel, John P. 1971. *How to Write Successful Business Letters*. Second Edition. New York: Arco Publishing.

Shostak, Jerome. 1968. *Concise Dictionary of Current American Usage*. New York: Washington Square Press.

Strunk, William, Jr. 1979. *The Elements of Style*. Third Edition. Revised by E. B. White. New York: MacMillan.

Washio, R. (鷲尾龍一) 1996.「語のタイポロジー」『言語』第25巻第11号　東京：大修館書店. (1996年11月)

Watanabe, T. et al. (渡辺登士他) (eds.) 1976.『続・英語語法大事典』東京：大修館書店.

__________. (eds.) 1981.『英語語法大事典・第3集』東京：大修館書店.

Webster's Dictionary of English Usage. 1989. Springfield, Mass.: Merriam-Web-

ster. [*Webster's Usage*]

Yasui, M.（安井 稔）(ed.)1996.『コンサイス英文法辞典』東京：三省堂.

________. (ed.) 1987.『現代英文法事典』東京：大修館書店.

Yasui, M. et al.（安井 稔他）(eds.) 1976.『形容詞』（現代の英文法　第 7 巻）東京：研究社出版.

Yoshikawa, Y.（吉川美夫）1955.『文（下)』（英文法シリーズ21）東京：研究社出版.

____________. 1955.『英文法詳説』東京：文建書房.

Zandvoort, R. W. and J. A. Van Ek. 1975. *A Handbook of English Grammar*, Seventh Edition. London: Longmans, Green.